報　告　書

未来の柏の図書館について語り合おう！（4）

柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）

平成 30（2018）年 9 月 19 日（水）

アカデミック・リソース・ガイド株式会社（ARG）

1.　基本情報

1.1.　開催日時

平成 30（2018）年 9 月 19 日（水）19:00～21:00

1.2.　会場

柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）（柏市若柴 178-4 柏の葉キャンパス 148-4 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト 103）

1.3.　参加者数

参加者：16 名

1.4.　事務局

生涯学習課
髙村課長、橋本副参事、柳川副主幹、川本主任
図書館
小池館長、利光副主幹
アカデミック・リソース・ガイド株式会社（ARG）
鎌倉、宮田

2.　プログラム

プログラムは以下の通りです。

時間	内容
19:00～19:05（05 分）	趣旨説明、本日の流れ
19:05～19:15（10 分）	自己紹介
19:15～19:50（35 分）	ワークショップ#1 図書館への期待と課題
19:50～19:00（10 分）	休憩
19:00～19:40（40 分）	ワークショップ#2 どんな図書館だったら行ってみたい
19:40～19:55（15 分）	グループ発表（3 分×2 グループ）とまとめ
19:55～20:00（05 分）	閉会の挨拶と事務連絡（今後の予定等）

3. ワークショップ

3.1. 図書館への期待

- 知らないことに巡り合える図書館
- 読みたい本（電子書籍や洋書も含む）がある図書館
- 使いやすい場所にある図書館
- きれいな本が置いてある図書館
- まちのアーカイブ資料としての図書館
- 自分が読んでいいなと思った本を人にすすめたり、逆に人からすすめてもらえたりする、本を通じた交流の場所
- Wi-Fi 等が整備され、サテライトオフィスとして利用できる図書館だと 30 代、40 代も利用するのでは
- 行き場のない子どもたちもいるはず。そのような子どもたちの居場所になってほしい
- 図書館はわかりやすい公共の場所で、誰でも来ていい場所、居られる場所であり、こんな場所は他にはない。その特徴を最大限に生かす方法を考える
- 様々なニーズを満たす場所
- まちの顔となる図書館になってもらいたい

3.2. 図書館の課題

- いまの図書館は遠くにあるため、特に子どもたちにとっては行くことができない
- そもそも図書館がどこにあるのかわからない
- 図書館に行く目的が見いだせない
- 図書館に行くのがだるい。行きたくなるようなワクワク感があるとよい
- 借りたい本がわからない
- 本を読む場所、借りる場所だけでよいのか
- 調べ物をするときに、参考図書が各分館に散らばっており利用しづらい
- 本屋で立ち読みのほうが便利。最新の本を見たいときは本屋に行ってしまう
- 紙媒体は必要か。紙媒体以外も置く必要はないのか
- 専門書が少ない。仕事をしている人は専門書を読みたいと思う
- 子どもの本を読むスペースが狭くて閉鎖的なので、もう少し開けた雰囲気があると嬉しい
- いまの図書館は個人利用しかできない。グループ学習ができるスペースも必要
- 学習スペースがない
- ひとりで静かに自習をしたい日もあれば、友達と話ながら勉強したいときもあるので、そのときの状況に合わせて利用できるスペースが必要。いまの図書館は友達などと一

緒に行っても、話したり教えあったりすることができない。話してはいけない空気がある。パソコンの音も気にする人がいる気がして、仕事でつかえない

- 少し音楽がかかっていたほうが、周りの音を気にせずに使えるのではないか
- ゆっくり調べ物ができるスペースがない
- コピーが取れない
- 本の汚れが気になる。空間も含めて「清潔感」が必要
- いまの図書館は光が入らず暗い
- 雰囲気が暗いので、電球を変えて明るくするだけでも変わるのでは。明るくなると開放感を感じる
- 分館も整備してほしい。近くにある分館は狭くて暗い雰囲気で行くのをためらう
- 柏市の図書館は分館も含めて建物も本も古い
- 本の分類が利用者目線ではない
- ウェブサイトが昔っぽく、情報にたどり着かない
- 本を探す機械（OPAC）の情報が印刷できない。近くに紙とペンも置いていない。メモ用紙があるだけでも本を探しに行くのが楽になる
- 司書に話しかけづらい

3.3. どんな図書館なら行ってみたい

- 柏市の歴史を体系立って知ることができる場所
- 自然光が入る、明るい図書館
- 利用しやすい雰囲気の図書館
- よい取り組みをしていても周知が不十分だと利用されない。人が信頼をする口コミなどを通じて楽しさを伝えてもらえると行ってみたくなる
- 季節感を感じられるように内部の装飾をしてはどうか
- T-SITE のような近代的でおしゃれな雰囲気の場所
- アクセスが良いと、図書館に行く機会も増える
- イベントを定期開催してもらいたい
- マンガが読めると嬉しい
- ご飯が食べられる場所があるとよい
- 資料を活用し、市民が政治に興味を持つきっかけとなる等、「きっかけ」づくりの場になるとよい
- 空調がある等、快適に過ごせる図書館
- 子育てをしている世代としては、休日、親子で過ごせる場所だったらありがたい
- 子育て支援として健康相談が受けられるとよい。保育士が来てくれる図書館
- 移動図書館を使ったアウトリーチに取り組んでいる図書館
- 図書館に向かう道も含めて空間のあり方を考えていく。図書館までのアクセスが楽し

い雰囲気をつくりたい

- 保育園、幼稚園、学校等と連携し、図書館に行かなくても学校で図書館の本が借りたり返せたりできるとよい。遠くまで歩いていけない子どもたちが、自分が通う学校でさまざまな本を借りることができる
- 他の図書館との連携の強化をして、多くの本と触れ合う機会がほしい
- 地域の大学図書館との連携をしている図書館
- 本を読む、勉強する、選ぶ、仕事をする、活動をする等、いろいろな目的で利用できる場所
- 図書館プラスアルファ―（ホール、学習スペース、趣味の部屋、ミーティングスペース、ワークショップスペース、イベントスペース）があると、まちのコミュニティ活動がさらに活発化する
- フロアごとに特徴（専門性）を持たせる
- 世代を超えてコミュニケーションが取れる世代間交流ができる図書館
- 幅広い人々が出入りできる場所
- 本の感想を他者と共有できる場所
- さまざまな年代の人たちが各自やりたいことを自由にできる場
- いまの図書館は明かりが少なくて暗い印象があるので、館内が明るい図書館だと気持ちも高まる
- 駅前等、アクセスのよい・通いやすい場所にある図書館
- 会社や学校帰りによって使えるように夜 21 時頃までやっている等、開館時間がライフスタイルに合う図書館
- 朝早くから夜遅くまでやっている図書館
- 読んだり借りた本の履歴が見れたりするようにしてもらえると、振り返りができる
- 他のスペースと連携し、たとえば駅前で貸出・返却ができるようにしてもらいたい。いつでも返却できるポストが駅前やコンビニ、キャンパス前にあるとよい
- 利用しやすい場所にサービスポイントがあると便利
- 談話スペースやソファーがあり、くつろげる図書館。必ず座れると嬉しい
- あえて何もしない空間が必要。ソファー、マッサージチェア、足つぼ（青竹）等があり、寝転べるスペースもあると嬉しい
- 見つけた本をすぐに読める椅子があるとよい
- 大人向けのスペース、子ども向けの児童室と分けるのではなく、大人も子どもも気兼ねなく一緒に楽しめる図書館だと、家族全員で楽しめる
- 子ども図書館のような雰囲気の、大人向けの図書館
- 分類が見やすかったり、分かりやすかったり、本が探しやすい図書館
- 建物の中に閉じるのではなく、外でも本が読める、外に開けている図書館
- 移動図書館があり、図書館に来られない人にも本が届くとよい。分館も含めて図書館に

来られない人たちにどのように本を届けるかを考える必要がある

・　行きたくなる図書館のキーワードは「世代間交流」「利用しやすい」「子どもの居場所」

以上